



明化の教育

7月号(第491号)

令和3年7月1日

文京区立明化小学校

校長 熊倉 勝

できることから着実に ~GIGAスクール構想実現に向けて~

校長 熊倉 勝

コロナ禍により加速化したGIGAスクール構想。この目的は、次の通りです。

- ◆一人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する。
- ◆これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す。

一人1台のタブレットを活用することにより、次のような学習効果が期待できます。一斉指導の場面では、一人1台のタブレットにより教師は授業中でも一人一人の反応を把握できるようになり、子供たち一人一人の反応を踏まえた、双方向型の一斉授業が可能になります。個別学習の場面では、各人が同時に別々の内容を学習することができるようになり、個々人の学習履歴を記録することで、一人一人の教育的ニーズや学習状況に応じた個別学習が可能となります。協働学習の場面では、一人一人の考えをお互いにリアルタイムで共有することができ、子供同士で双方向の意見交換が可能となります。そして、各自の考えを即時に共有し、多様な意見にも即時に触れることができるようになります。このように、学びの深化、学びの転換につなげていくのが一人1台のタブレット活用なのです。

現在、本校では、

- 自分の育てているアサガオの成長の様子をタブレットで撮影して、観察する子供たち
- 毎月の句会をオンラインで行った学級
- Teamsを活用し、Power Pointで同時編集をしながらプレゼン資料を作成した学年 など

一人1台配付されたタブレットの活用を試みている様子が見られるとともにタブレット活用の幅の広がりを感じます。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、子供たちがタブレットを「文房具」として自由な発想で活用できるようにすることを目指して、「まずは使ってみる」を合い言葉にできることから一つ一つ着実に取組を始めています。

GIGAスクール構想実現に向けて、各学校では、これまでに蓄積された教育実践を基にICTを効果的に活用することによって、学習活動を一層充実させ、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を図っていくことが求められています。そして、子供一人一人の理解状況や能力・適正に合わせた個別最適化された学びを行うことで、誰一人取り残されることがなく、全ての子供たちが安心して学べる機会を作っていかなければなりません。

さらに、教室の中だけ、教師が指示したときだけタブレットを使うのではなく、大人が必要なときにスマートフォンで調べるように、子供たちも学習の中で必要なときに自由にタブレットを活用できるようにしていくことが大切です。もちろん、今すぐに実現できることではありません。様々な試みをしていながら、長いスパンで取り組んでいきたいと考えています。そのためには、ご家庭の協力も必要不可欠です。今後の本校の取組についてご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

